

3. フィンランド

(1) バーサ市(City of Vaasa)

Entrepreneurship Education

<p>教育の対象者 3歳～大学生</p> <p>教育の実施者 幼稚園～大学</p> <p>地域で目標を同じくする人々を見付け、彼らに中心となって教育を実施してもらうコミュニティ・アプローチを採用している。</p> <p>University of Vaasa, Centre for Continuing Education は、1990年代前半、フィンランドと北部スウェーデンの千人以上の先生のために、アントレプレナーシップ・企業教育プログラム(entrepreneurship and enterprise education programmes)のアレンジや共同アレンジの依頼を受けた。</p> <p>教育プログラム実施のコーディネーター バーサ市(City of Vaasa) バーサ大学(University of Vaasa)</p> <p>教育プログラムの企画者 Abo Akademi University</p>
<p>教育プログラム企画の背景・経緯</p> <p>近年、辺境地となるか世界的競争の中でその地位を失うかという恐怖にさらされている世界の地域は、地域発展のための戦略を考案した。各国が直面するいくつかの問題は、歴史的な物事の行い方、価値観、仮説、信念、文化、政治的決断に由来しており、それが変化する世界に順応することを困難にしている。</p> <p>フィンランドでは、技術的進歩に付いて行くことに明確に重点を置いてきた。この決断が、特に全国の技術的領域における高等教育や情報技術インフラに対する投資を促進した。バーサ地区(Region of Vaasa)も、必ずしも最先端の新しいメディアやITビジネスではないものの、小規模な部品供給メーカーを近隣地域に有するいくつかの国際的大企業が立地しており、例外ではない。</p> <p>今日のバーサ地区は、フィンランドの中で最も強い地区の一つであり、不況を最も上手く乗り切った地区である。しかし、地区にある大企業はフィンランドおよび欧州内においてまったく市場を持っておらず、長期的には、市場の変化によって、部品や資材の調達先を外国に移転するかもしれないという問題がある。</p> <p>一方、フィンランド人は、要求されたことは何でもできる、つまり、仕事に対するモラルが非常に高く、労働者の教育レベルや語学能力も高く、それがハイテク製品でも見事に製造することを可能にしている。ただし、これは、高品質の人的サービスが期待されない限りの話である。</p> <p>バーサ地区についての - すなわちフィンランド一般の - 長所・短所についての上記のような分析が、1990年代前半、バーサ市のアントレプレナーシップ教育(entrepreneurship education)戦略の開発を促した。</p> <p>包括的なアントレプレナーシップ教育を開始するアイディアは、バーサ地区の3つの主体によってほぼ同時に考え出された。</p> <p>まず、Entrepreneurs' Associations が、バーサ市に対して、小規模企業のニーズにより配慮した新しい形の教育についての提案書を提出した。この提案に対してバーサ市は、起業家精神をもった教師を試験的に訓練する委員会と、幼稚園を含む全学</p>

校で使用されるアントレプレナーシップ教育のカリキュラムを開発する委員会とを指名・設置した。

University of Vaasa, Centre for Continuing Education は、Swedish School of Economics' Vaasa unit と共同で、教師の訓練を手配する責任を負った。

Abo Akademi University は、カリキュラム開発を指揮した。

地元の新聞の日曜版に連載されたアントレプレナーシップについての University of Vaasa の講義シリーズは、世論に影響を与えた。

当初のアントレプレナーシップ教育は、ノルウェーから輸入されたモデルプログラムにかなり似ており、生徒はキヨスクや土産物製造といった小規模な企業を開業するものだった。教室で使われる企業ゲームを含む訓練教材までであった。

しかし、1994年に Koiranen 氏の系統の教育者によって提唱された考え方によってアントレプレナーシップ教育戦略は大きな変革を遂げた。つまり、起業家精神 (entrepreneurship) および「内的起業家精神 (intrapreneurship)」の両方に必要な資質が強化されるようなアプローチが採られるべきであるということが提唱されたのである。「起業家精神 (entrepreneurship)」と「内的起業家精神 (intrapreneurship)」は、Koiranen 氏とバーサの用語で、それぞれ「外的起業家精神 (external entrepreneurship)」、「内的起業家精神 (internal entrepreneurship)」と呼ぶ。

1986年に マッティ・ペルトネンによって、「外的起業家精神 (external entrepreneurship)」は「独自のビジネスをスタートさせ経営すること」、「内的起業家精神 (internal entrepreneurship)」は、「起業家的に仕事をすることは他の人にとっても役にたつこと」と定義された。Koiranen もほぼ同様の定義をおこなっている。この結果、カリキュラムは、幼稚園段階では内的起業家精神に注意を払い、義務教育の最初の数年間の後に、商品開発や企業設立を含む外的起業家精神の現実に徐々に移っていく内容となった。

1996年に、バーサ市内だけでなく周辺の郊外地域においても本教育プログラムは普及されるべきであるとの考えから、フィンランド教育省 (Finnish Ministry of Education) は、University of Vaasa, Centre for Continuing Education が提案したプロジェクト “Sunflower (Auringonkukka)” に対し、国家プロジェクトとして資金を提供することを決め、University of Vaasa, Centre for Continuing Education が本プロジェクトを運営することとなった。

プロジェクトは、University of Vaasa, Centre for Continuing Education と Abo Akademi University / Unit of Ostrobothnia と Swedish School of Economics' Vaasa unit が共同で手配をおこない、1996-1997年度に、バーサ地区内郊外の8つの地方自治体 (4つはフィンランド語を話す住民が多数を占め、4つはスウェーデン語を話す住民が多数を占める) において開始された。

“Sunflower” プロジェクトの目的は2つあり、1つはバーサ市内の学校で開発された実践手法やアイデアを地区全体に普及させること、もう一つはバーサ市外での実践を通じてさらなるアイデアや新しいアプローチ手法を集めてアントレプレナーシップ教育をより進化させることである。

教育プログラムの目標

企業心に富み意欲的な学校と企業心に富み意欲的な社会に向けた文化的変革

起業家精神 (entrepreneurship) と内的起業家精神 (intrapreneurship) を生徒・教師・組織の中に奨励すること

幼稚園から大学レベルまでの全学校段階における “実行と経験から学ぶ” 方式
ネットワークし協働することを学ぶこと

教育プログラムの目的

自営 (self-employment) または小規模企業の中での雇用に対する理解と能力を高め

ることを目指している。

<p>教育プログラムの内容 実施場所 ・教室内 プログラムの内容 ・教師のための、多様なコース時間・多様なフォーマット・多様な内容を持つ、生涯教育コース ・教師・親・ビジネスパートナー・生徒のためのワークショップやセミナー、講義 ・プロジェクト Sunflower Europe-to-Canada Enterprise Exchange Programme Youth Education and Work Programme Teacher Training : 恵まれない若者に教育を継続するよう励ますことについて教師を訓練することに焦点を当てたプログラム Consultants for Entrepreneurship Education ・開発にマスティアを巻き込んでいる。 講師 ・教師</p>
<p>教育プログラムの効果 アントレプレナーシップ教育は修了するのに約 10 年かかるものであり、バーサ市内の学校の多くは 1994 年に開始し、郊外の地方自治体は Sunflower プロジェクトに伴って 1997 年に開始したことから、まだ科学的な結果は出ていない。しかし、現在高校 3 年生になっているアントレプレナーシップ教育に参加した最初の子供達は、生徒達の中で最も活発で社会的であると教師達から評価されており、少なくとも内的起業家精神(internal entrepreneurship)は形成されたと考えられる。 教師の中には、これまでは“ 子供達の能力開発を導いている ”という意識だったが、“ 社会の発展のための役割を自分が実際に果たしている ”ということに初めて感じたと言った人がいる。 政治家、起業家、教師、子供達からの反応は、これまでのところ好意的である。皆、アントレプレナーシップは、この地区が世界市場で競争できるよう保証してくれるコア・コンピテンスにはならないかもしれないが、確実に必要な条件であると感じている。 現在では、バーサ市のアントレプレナーシップ教育(entrepreneurship education)戦略に伴った行動は、上手く発展し、北部スウェーデンや西ロシアにまで至る近隣諸国にまで広く及んでおり、バーサは、北欧のアントレプレナーシップ教育の中心地になったと言える。 “ Sunflower ”プロジェクトでは、コーディネーターによる各地方自治体の教師への指導を少なくしたことにより、各地方自治体の教師が、地元起業家と接触しながらそれぞれの地方に合った独自のアプローチ手法を開発することを促し、効果的な成果を得た。8 つの地方自治体のうち 3 つの地方自治体では、バーサ市のプログラムとはまったく異なるアプローチ手法のものが開発された。</p>
<p>その他 1994 年から、バーサ市は、スウェーデン、イングランド、スコットランド、アイルランド、ポルトガルと連携して国境を超えた EAC(Entrepreneurship-Activity-Creativity)プロジェクトにも参加している。本プロジェクトの目的は、EU 内でのアントレプレナーシップ・企業教育(entrepreneurship and enterprise teaching)の最良の方法を探索・開発・普及させることである。</p>
<p>照会先</p>

東北経済産業局

「アントレプレナーシップ教育プログラムの普及に関する東北的モデル検討調査報告書」
(H13年度)

University of Vaasa

• PL 297, 65101 Vaasa, Finland

• Email: kais@uvasa.fi または kaisa.isotalo@edu.vaasa.fi

(資料)University of Vaasa ホームページ <http://www.uvasa.fi/taky/euro/aurinko/oppi/eng.html>
Kaisa Isotalo, Project Manager, University of Vaasa, Centre for Continuing Education
“Entrepreneurship-the way we work in Vaasa” (ワークショップのレジюме)
Tauno Kekale, University of Vassa / Production Economics, and Kaisa Isotalo, Project Manager,
University of Vaasa, Centre for Continuing Education “Auringonkukka/Sunflower A Regional
Strategy for Entrepreneurship and Service Quality in the 2000s”
北海道産業クラスター創造研究会 ベンチャーグループ、日本開発銀行、北海道東海大学「北海道
における起業家支援システムの在り方について 参考資料」(1997年3月)